

地ケ算
5

菅地区の郷土野菜 “のらぼう菜” を次世代につなごう！

実施日 令和5（2023）年11月7日（火）
10:00～11:00

場所 介護老人保健施設
よみうりランドケアセンター 裏庭

地ケ算メンバー

網掛けは中心メンバー

川崎市
農業技術支援センター



介護老人保健施設
よみうりランドケアセンター

地ケ算の経緯

きっかけは令和5年度報告会（9月）

＼ 困りごと・改善したかったこと ／

＼ Team SUGEの資源 ／

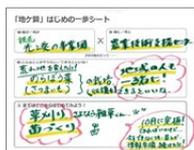
裏庭の荒地を改善したい
(よみうりランドケアセンター)

栽培可能な敷地（荒地）
(よみうりランドケアセンター)

菅地区の郷土野菜
のらぼう菜を
普及させたい
(農業技術支援センター)



のらぼう菜の種と
栽培ノウハウ
(農業技術支援センター)



みんなで出した
「地ケ算」はじめの一歩シート

目的・目指したいこと

以前は花などを栽培していた、荒地のような状態の敷地を、施設の地域貢献の一環として、復活させたい

利用者さんが楽しめる機会を作りたい

こうした活動を通じて、担い手が減ってきている菅の伝統野菜のらぼう菜をもっと広めていきたい

当日の実施内容

- 川崎市農業技術支援センターから「のらぼう菜」の歴史や特徴の説明
- 植え方の説明と植え付け作業の実施

地ケ算メンバーの声

介護老人保健施設よみうりランドケアセンター

いちごの収穫体験を通じて、この次の取組につながりました。今後は、奥の敷地もぜひ復活させていきたいです。



ケアセンターの敷地は、もともとすごく荒れていたところ。ケアセンターと技術支援センターで土を掘り起こし、復活させました。

植え付けに参加した利用者の方は、以前は農家としてのらぼう菜を栽培

していたプロでした。「生活の一部だったので土を触るのが大好き」と話していました。

のらぼう菜は3月が収穫時期。3月14日には、収穫体験を実施し、Team SUGEメンバー4名とケアセンター利用者5名が参加しました。

葉っぱを切ってもさらに伸びる強い野菜なので、5月くらいまで収穫できます。

今後は、利用者さんのリハビリも兼ねて成長を見守り、収穫した野菜をセンターで食べるという循環に期待します。